



楷

第三十六号

岡山大学
 附属図書館報
 OKAYAMA UNIVERSITY
 LIBRARY BULLETIN

KAI

No.36

2003

FEBRUARY

<写真>

みなくちまもり (みなくちまもり)

溝五位ト同物異名

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」より (岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵)

— 目 次 —

- 「学問の木」の下で (附属図書館事務部長) p. 2
- 池田家文庫絵図のデジタル化と岡山市デジタルミュージアム (仮称)
 (岡山市デジタルミュージアム開設準備室 乗岡実) p. 4
- 私の研究活動を支える愛すべき資生研図書館
 (大学院自然科学研究科博士後期課程 イダ・バグス・アンディカ) p. 6
- 初めての図書館勤務 (資源生物科学研究所分館情報管理係 四方幹子) p. 7
- 学外者への図書貸出について (情報サービス課) p. 8
- 池田家文庫等貴重資料展示会報告 (情報サービス課) p. 9
- マスカット p.11
 ボランティア、図書受入冊数の増加、教官寄贈図書、ほか
- 会議・研修・編集委員から p.12

「学問の木」の下で

仲野 憲 一

岡山大学附属図書館勤務を命ぜられ、都内の職場の仲間に挨拶回りをしているとき、知人から「あその附属図書館には、何とかという謂れのある木があり、岡山大学の皆さんは大変自慢のようですよ」と言われ、その木の名もわからず、興味もなかったのに10月1日岡山大学へ転勤してまいりました。

就任して間もなく、その木の名が「楳の木」であることを知りました、附属図書館の正面玄関の両側に植えられた、特に何の変哲もない2本の木、秋には素晴らしい紅葉を見せてくれました。

謂れを聞くと「これは、中国から渡ってきた学問の木と言われています」との事、知識乏しい私は、この木の下で勉強し、本を読むと人間の脳細胞を刺激する不思議なエネルギーを受けて自然と頭がよくなるのではなどと勝手に想像しておりました。

とは言いながら、なぜ学問の木なのか気になり岡山県大百科事典で調べてみると「カイノキトネリコバハゼノキ」は、ウルシ科の落葉高木、中国では孔子廟の木として著名。1915年農林省林業試験所の白沢保美氏が、中国の孔子廟から持ち帰って育苗し、日本各地の孔子廟に配ったのが最初、岡山では備前市の「閑谷学校」に2本植栽されたのがその時のもので、岡山大学へは、近年になってから植栽されたとの事。

「閑谷学校」は、岡山の皆さんならよくご存知、岡山藩主池田光政の命により江戸期庶民の子弟の教育を主体とした岡山藩の郷校（郷学）として設立、現存する講堂は国宝、その他の建物は重要文化財、設立は全国各地の郷校の中で最も早く、わが国庶民教育史上特筆すべきもの、その規模と内容において岡山の藩校とともに全国的に有名な存在であったとの事。

これで、学問の木の謂れは更に納得いけるのではないのでしょうか。

私は、やはり科学的・医学的・植物学的面から「カイノキ」が学問の木であることが立証できればと淡い期待を捨てきれず、不思議なパワーを、未だ信じて止みません。

話は多少それますが、叶わぬ望みを立証出来ればと資料を探し図書館内を歩いておりますと、資料を机いっぱい広げ真剣に勉強する学生、端末に向かい情報を検索する学生、夢の中にどっぷりとはまっている学生等々を見ながら数年前の事を思い出しました。

今から7・8年ほど前の事です、全く異なる時期に仕事の関係である大学を訪ねたときの、其々に一流有名大学の教授との会話の内容で、その当時は何となく聞き流していました。

一件目は、東京の国立大学教授との会話。

私 「先生相変わらず忙しそうですね？」

教授「全く大変！ 研究どころか、今までしたことのない、就職活動の仕事までさせられるのだから。今××会社へ卒業生を訪ね帰ってきたところ、教え子から（先生、今は〇〇大学卒業だけでは駄目で、他と異なるどのような知識を有するかが重要です、先生方の教育の方も宜しく）だって。此までだったら、ほっておいても殆どが就職できていたのにね！」

もう一件は、京都の私立大学教授との会話

私 「先生最近の学生さん、図書館を利用して勉強していますか？」

教授「図書館に来るかどうかは別にして全般的に勉強しないね！ これから伸びそうな学生等に目を付けて、学習の指導をしようと思うのだが、大学に入って安心しているのか、遊び仲間に誘わ

れて3・4年経ったときには皆が同じレベルになってしまいでしょうもないのが現状だね」

私 「先生はそれで良いんですか？」

教授「そんなこと言ったって君しょうがないよ、多勢に無勢！ 大勢の仲間に誘われて楽しいことをしているほうが楽し、それで〇×大学卒業の肩書きが貰えれば良いんじゃないの。此からは大学も少子化で運営が益々厳しくなるけど、私は放送大学が脅威だね、何故って一般社会の個々人がそれぞれに目的をもって教養を高めようと勉強するんだから、学生のやる気が違うんじゃないかな」

それぞれの教授との会話の中に含まれる内容には、深く考えさせられる事が多々ありますが、教育のあり方、学生の意識、勉学への意欲も問われています。

図書館内で勉強する学生を見つめ、今の教育はどうなっているのか、学生の意欲はと考えると、学生を応援したくなる一瞬でもありました。

日々の新聞記事や、放送番組からのニュースで失業率や就職内定率の話題を耳にしますと日本経済がここ数年で良くなるとはとても思えません。

岡山大学に入学し勉学する皆さん、学校は「将来経済的に自立して生きていける知識・技術を身につける場所」と言われています、多くの知識をもつ教官、先人の知識を蓄積した図書館からどのような知識を得るかは皆さんの努力しだいです。

現社会では、企業は如何にして生き残るかが必須の課題となっています、新たな社員を求めるにも高度な基礎知識とプロ意識を備えた意識の高い学生を必要としています。

既にご承知のように〇〇大学卒業だけでは社会に出て生き残るのは困難でしょう、自分にどのような付加価値を備えるかが勝負です、その為には自分に投資することが必要です、遊ぶのも必要でしょう、しかし、1日に数時間図書館に足を運んで書架を眺め、情報端末で全世界から発信される学術情報を検索してみるのも良いのではないのでしょうか、場合によっては新たな問題・課題に気付くかもしれません。

皆さんはご存知ですか、今から10年程前いやもっと前かもしれません。米国で流行った言葉でデジタル・ホームレス、情報化社会から取り残された個人・組織のことを指していました、最近では「デジタル・デバインド＝情報格差」という言葉を良く聞きます、前者とは若干意味が異なりますが似ています、多くの情報を何時でも自由に入手できる環境にある組織・個人と、情報の入手が困難な環境にある組織・個人との格差をいいます、どちらが優位であるかは言うまでもありません。

必要な情報をより早く・効率的に入手することが如何に重要かは教育・研究に限ったことではありません、社会生活においても大切な場合があります、特に企業での情報格差は死活問題となり、個人であればリストラの対象となるわけです。

勿論、大学とて同じ事です。全世界の学術情報を何時でも自由に入手して効率的な教育・研究を行う大学と、十分に情報が入手できない大学とでは必ずと情報格差が生じてくるわけです、これをデジタル・デバインドといい、その組織（所属する教職員・学生）にとって将来致命的な問題となることは必至です。

附属図書館は、極力岡山大学で学ぶ皆さんが高度情報社会においてデジタル・デバインドによる不利益を被る事のないよう日々努力してまいります。

しかし、これも皆さんの研究や学習意欲によります、今国立大学は大規模な改革と自立を迫られております、必要性の薄いところ、要求のないところへの投資は行われません。

400年近くも前に、岡山藩が設立した教育の殿堂「閑谷学校」から、我々は今また教育の基本を学ばなければならないのでしょうか、私は暖かくなる季節を待って××パワーを信じ「楷の木」の下で20代の頃に読んだ宮本武蔵を読み直し、30有余年経った今武蔵が岡山県出身であったことを知った喜びに浸ってみようと思います。

(なかの・けんいち 附属図書館事務部長)

池田家文庫絵図のデジタル化と 岡山市デジタルミュージアム（仮称）

乗 岡 実

本館報の第35号で既に森山光良氏が書かれているように、岡山大学附属図書館、岡山県総合文化センター、岡山市が池田家文庫絵図を対象としたデジタル化事業に共同で取り組むこととなり、全国に例をみない画期的な官学共同のネットワークが動き出そうとしています。岡山市では、デジタルミュージアム（仮称）がその事業の拠点となります。

1. 岡山市デジタルミュージアム（仮称）について

デジタルミュージアムと言えば、インターネット上の仮想博物館と思われがちですが、私たちが進めているのは、れっきとした実体がある施設で、しかも国宝や重要文化財が展示できる本格的な博物館です。岡山市の文化面での都市基盤整備の一翼を担い、今日社会の閉塞状況の中で市民に夢を与え、まちづくりの拠点となる使命を担って、岡山駅西口の再開発ビルの中に平成17年に開館すべく、準備作業を進めているところです。

その特徴は、市民を主体者として位置づけ、現在に生きる市民を出発点として、岡山の森羅万象を多面的に掘り下げて、それを順次展示テーマに据えていこうと言うもので、岡山を再発見することによって、明日のまちづくりの活力を生み出す『岡山学』の拠点としての「人とまちの博物館」を目指していることです。そこでは、岡山の歴史などは重要なテーマとなるわけですが、いたずらに岡山の自慢話を展開するのではなく、汎日本あるいは世界的視野から岡山のもつ普遍性と個別性を追求しようという視点に立っています。したがって、時には市外・県外・海外に関わるものを展示品に含めたり、むしろこれらを主とする全国規模の巡回展の開催なども予定しています。

また、最新のITを大いに駆使することや、構造面で融通性を持った施設にするのも特徴です。そうした事により、岡山の森羅万象に関わる膨大なデータベースを構築して公開したり、実物資料とデジタルによるバーチャルを織り交ぜた総合的かつ個人ニーズにも対応可能な展示や、体験性・娯楽性・変化性をもった展示・運営を行います。さらに、学校教育との連携を進めて子供たちに「出会いと発見、学びと感動」を与えられる場としたり、他の博物館・美術館、それに大学をはじめとする研究機関や企業などとネットワークを結び、既に蓄積され、そして新たに創造される岡山の文化を発信し、また世界からの情報を受信するための拠点としての役割を持たせようとしています。

したがって、今回の池田家文庫を廻っての岡山大学・岡山県とのネットワーク化は、この博物館の根幹理念に関わる具体化例であり、岡山市長が出席して附属図書館内で合同記者発表があった昨年10月24日は、私たちの博物館活動における記念すべき第一歩となったのです。今後は、私たちの博物館と岡山大学あるいは岡山県とのネットワークが、池田家文庫以外の分野・部署にも広がっていくことが出来ればと思っています。

2. 『岡山学』の基礎資料としての池田家文庫絵図

約3,000点に上る池田家文庫絵図は、岡山藩の公文書をベースとして網羅的で一括性の高いものだけに、『岡山学』を中心に据えた博物館として、不可欠の基礎資料なのです。

当博物館は『岡山市立総合歴史博物館構想』の精神を発展継承したのですが、そこで唱われた岡山市の歴史の三大アイデンティティとして「岡山城と城下町の発展」や「児島湾域の干拓の過程」があり、当博物館でも重要なテーマとなっています。「岡山城と城下町の発展」は、岡山市の繁栄の直接の礎である岡山城から現在に至る都市の文化を考え、「児島湾域の干拓の過程」は長年にわたる耕地拡大の反復から、巨大土木事業にかけた叡智や今に至る農村文化・漁労文化やその自然と共存を考えようとするものです。

池田家文庫には、それらに直結する岡山城、後樂園、城下町やその屋敷、児島湾干拓地、新田や用水路建設にかかわる絵図は枚挙に暇がないほど含まれていますし、岡山市域を示した国絵図や郡絵図も多数あります。また、いっけん岡山に関わりなく思える諸国の城絵図なども岡山城を起点に近世城郭全般に目を向ける格好の材料ですし、瀬戸内の航海図なども岡山の都市繁栄を担った物流を考えるうえでは重大な意味をもちます。

つまり、絵図は見るものであると同時に、読むものであり、読めば読むほど広がりが出て面白いものであり、池田家文庫はそうした読み応えのある絵図の宝庫なのです。

3. デジタルミュージアム（仮称）の中での池田家文庫絵図

絵図を読み込むためにも、絵図をデジタル化して、ネット上で自由に検索したり、拡大して細部を見られることは大きな利点で、当博物館でも岡山大学や岡山県と調整を図りながら、デジタルアーカイブとしての池田家文庫絵図を検索・閲覧できるシステムを構築していきたいと考えています。

それ以上に重要なのは、当博物館では博物館としての性格から、絵図が単に見られるだけでなく、絵図のデジタルデータや場合によってはその実物や複製品などを、筋書きをもった展示の素材として積極的に活用していくことです。具体化やそれへ向けての調整作業はこれからですが、絵図のデジタルデータに文字情報を貼り込んだり、絵図と絵図、あるいは絵図と現在の地図・写真などを比較してみせたり、別種の実物資料や模型などと一体化させた展示など、さまざまなケースが考えられます。

岡山城のテーマでは、絵図と岡山市教育委員会が長年行ってきた発掘調査の成果、それに明治から戦災を経て現在に至る情報を織り交ぜた展示なども考えています。例えば城下町絵図と地中に埋もれた地形や現在の市街地を重ねて、曲輪配置の必然性や街割りの変遷を説いたり、絵図に書かれた屋敷の主の名前や、失われた明治・大正・昭和の建築や市民の姿をデータベース化して、今の建物や住居表示から、その土地の由緒を知る展示などもできそうです。また、ある絵図に描かれた本丸が江戸初期の改造前の姿を示すものであることや、本丸御殿図の色の塗り分けが瓦葺き建物か否かの違いと解釈できること、また各絵図の精度などを、発掘写真や出土品を交えて説明する事もできます。

こうした池田家文庫絵図の展示素材としての活用も、岡山大学や岡山県をはじめとする、さまざまな人々や組織の連携の中で練り上げて行きたいと思えます。

（のりおか・みのる 岡山市デジタルミュージアム開設準備室）

私の研究活動を支える愛すべき資生研図書館

イダ・バグス・アンディカ

私はインドネシアから来た留学生です。1998年から日本でお世話になっています。最初1年を研究生として、その後2年間、修士として勉強し、2000年に学位を頂きました。さらに専門的な学問と研究を続けるために博士課程に進み、現在も倉敷にある資源生物科学研究所で一生懸命勉強しています。

ここ倉敷はちいさな町で日本では有名な観光地です。観光の中心は美観地区で、きれいな景色と古い白壁の町並みを目当てにした観光客で賑わっています。岡山市と比較すると車が少なく静かです。私の家は研究所の近くにあり、生活のための買い物も近くのところで行うことができます。私はこんなロマンティックな倉敷での生活を楽しくやっています。

私は病態解析分野の玉田教授の指導のもと、植物病理学の研究をしています。今の研究は植物ウイルスに対する抵抗性植物を作出することです。そのためにウイルス由来の遺伝子を植物に導入し形質転換植物を作りました。得られた形質転換植物の中にはこのウイルスに対する抵抗植物がありました。現在は抵抗性の機構解明を課題として研究を進めています。これからも研究を楽しくやって行きたいと思います。

近年の研究には分子生物学の手法がよく使われています。最近、分子生物学では最先端の分野で次々に新しい発見や方法などが報告されています。この最新情報を知るためにジャーナルをはじめ教科書や専門書が欠かせません。その点、私たち学生を含めて研究所員は立派な図書館に恵まれ本当にありがたいです。ここの図書館には必要なジャーナルがほぼ揃っており本当に助かっています。図書館のスタッフもとても協力的で心から感謝しています。

最近インターネットの普及で沢山のジャーナルが自分のパソコンで見られるようになり、図書館に行く機会が少なくなりがちです。しかし教科書や専門書や昔のジャーナルなどを見るために図書館に行く必要がまだあります。これからも勉強や研究に必要な図書をガンガンビシバシ揃えて欲しいと思います。

コンピュータ技術の進歩によりデータの保存や管理の仕方も変わってきました。デジタルの形で膨大なデータが簡単に保存できるので、今までの紙の利用もきっと減っていきます。またデータ検索も以前よりかなり簡単に行えます。これから図書館はデータを保存する場所として変わって行くだろうと思い、すごく興味を持っています。これからも資源生物科学研究所の図書館は新しい技術を取り込んでやっていっていただきたいと思っています。

図書館はただ情報の集積する場所というだけでなく、その他多くの役割を持っていると思います。図書館は学生の勉学の場であり、セミナーや議論をする場となることもあります。人間で例えると、ちょうどブレインにあたるのではないのでしょうか。私たちの“scientific life”に不可欠な場所でありつづける図書館に今後も期待しています。スタッフの皆様、よろしくお祈りします。

(イダ・バグス・アンディカ 大学院自然科学研究科博士後期課程)

初めての図書館勤務

四方 幹子

平成12年10月1日、いただいた辞令は「情報管理係」と記されていた。初めて図書館に勤務する私には何をやる係なのかまったく分からなかったが、説明された仕事内容は主に受入図書の日録登録で、つまり、図書日録担当である。司書課程で習ったとはいえ、もちろん最初から登録作業ができるはずがなく、初めの1-2ヶ月はILLで申し込まれた資料や国立情報学研究所から書誌調整を依頼された雑誌を書庫で探す仕事がほとんどだった。冬の書庫はとても寒かったが、研究所の所蔵資料を知るのにとっても役に立ったと思う。やはり農学関係の雑誌が多い中、アメリカの古い園芸雑誌や、育児雑誌らしきもの、昭和初期の婦人雑誌などもあり、そのような資料にあたると思わず読んでみたくなり、仕事の合間にぱらぱらめくって見たりした。かなりおもしろかった。同時に日録や分類、登録手順について係長から教わり、実際の登録作業を少しずつ始めた。気を付けてデータを作ってもしばしばエラーメッセージが表示され、その度に周囲の方々に助けを求めた。今でもよく教えて頂くが、その頃はたびたび相手の仕事を中断させてしまい、本当に申し訳なかった。

受入図書、いわば比較的新しい図書の登録作業に慣れてきた頃、そろそろ遡及入力をすると思い始めた。研究所分館では職員が遡及入力も行う。遡及入力では新規書誌を作ることも多くなるため、日録規則をもう一度読み直した方がよさそうだと感じ、分厚いコーディングマニュアルを最初から読み始めた。途中まぶたが閉じそうになりながら読み終え、いよいよ書庫の図書の登録にとりかかった。書庫の図書は埃やカビが小口や表紙に付着して、はっきり言って手を触れるのがためられるものがある。また製本状態が悪く、別の意味で触れるのが怖いものもある。軍手をはめて本を取り出し、書誌データを検索すると、若い分類番号にかたまっていた1800年代、1900年初期のドイツ語図書はデータ無しが多く、今度は独和辞典が手離せない。泣かされたのはひげ文字で、書いてある文字が分からない。ひげ文字リストをインターネットで見つけた時はやれやれと思った。なお、私がよく使わせてもらう鳴門教育大学附属図書館HPの「おまけ」のサイト (<http://www.lib.naruto-u.ac.jp/omake/index.html>) は日録担当には面白いと思うので、一度御覧いただければと思う。

ILL業務や雑誌日録についても入門程度ではあるが教えて頂ける。図書日録に限らずいろいろ勉強させて頂けるのは、職員数4名という分館ならではのところだと思う。分館ならではの一言、一人で職場を預かることもあり、そんな時に電話があたり利用者の方が来られると、勤務当初はどきどきした。今は慣れもあって、少し落ち着いて対応できるようになったが、後でこうすればよかったと思うことはよくある。まだまだ勉強したいことはたくさんあるし、勉強しなければならないこともある。縁あって岡山大学附属図書館に勤務することになったこの機会を大切に、一人の図書館員として頑張る毎日である。

(よも・みきこ 資源生物科学研究所分館情報管理係)

学外者への図書貸出について (中央館)

情報サービス課

はじめに

附属図書館では、従来から学外の方々に対して、申し出によって図書館の利用を認めておりましたが、館内における閲覧・複写サービス等に限られておりました。

大学図書館は知の宝庫であり、先人の叡智がぎっしりと蓄積されております。これを広く市民の皆さんに公開し、利用していただくことは地域とともにある大学として、当然の使命であると思えますが、今まで様々な理由によって対応できておりませんでした。

昨今、生涯教育ということがクローズアップされてきました。附属図書館は、この生涯教育の支援の一環として、平成14年10月から、学外の方へも図書の貸出を開始しました。

市民の皆様にも多数御利用いただければ幸いです。

館外貸出の概要

1. 館外貸出を受けることのできる方は、次に該当する方です。
 - ①他大学の教職員及び学生
 - ②本学の教職員又は学生であった者
 - ③岡山県内に居住する18歳以上の者（高校生を除きます。）
 - ④附属図書館長が特に認めた者
2. 借りることのできる資料は、図書に限ります。貴重書、雑誌、参考図書、特殊文庫資料、視聴覚資料などの禁帯出のものは借りることができません。貸出は、1回2冊以内、期間は14日以内とします。
3. 貸出を受けた人が期限内に返却しなかった場合は、超過した期間に相当する期間は、貸出を停止します。
4. 学生の試験期間中（1月・2月・7月）は、当面、貸出を行いません。
5. 館外貸出を希望する方は、所定の利用願いに写真2枚（正面無帽、20mm×25mm）を添えて、図書館正面の貸出カウンターに申し出てください。貸出カードは後日郵送いたします。申請日当日の貸出はできません。

詳細については、貸出カウンター（内線：7318）にお問い合わせください。

館内での利用

館内での閲覧等の利用については、従来どおりです。正面玄関のカウンターに申し出てください。館内では開架図書・雑誌、書庫内など自由に利用できます。

また、必要に応じて、コピーすることができます。館内備え付けの情報検索用パソコンについても原則的に自由に御利用いただけます。

池田家文庫等貴重資料展

開けゆく岡山平野—岡山藩の新田開発(1)—

情報サービス課

はじめに

恒例となっている池田家文庫等貴重資料展を、本年度は平成14年10月23日(水)から11月1日(金)にかけての10日間、「開けゆく岡山平野—岡山藩の新田開発(1)—」と題して、附属図書館新館5階の特殊資料展示室において開催した。

寛永9〔1636〕年、岡山藩主となった池田光政は藩政確立の一環として新田開発にも積極的に取り組んだ。当初は小規模なものであったが、明暦2年〔1656〕光政は改めて新田開発を命じ、以後、次々と干拓が進められた。今回の展示は、これらの多彩な岡山藩の新田開発事業から、第1期として岡山平野東部の干拓事業を中心に構成した。

今回の入場者総数は426人であった。

展示品一覧

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. 備前国九郡古図 | 18. 社倉米ニテ取立ノ開墾地面積及費額摘録 |
| 2. 備前備中新田惣高目録 | 19. 留帳 |
| 3. 上道郡新田所絵図 | 20. 御評定書 |
| 4. 備陽国史日録 | 21. 御留帳評定書 |
| 5. 備陽国史日録 | 22. 奥上道郡口上道郡船通溝ノ図 |
| 6. 上道郡新田之絵図 | 23. 御普請積之日録 |
| 7. 備陽国史日録 | 24. 旭川東部絵図 |
| 8. 備陽国史類編 | 25. 上道郡倉安川絵図 |
| 9. 上道郡沖新田干拓前之海岸図 | 26. 邑久郡新田絵図 |
| 10. 津田永忠「奉公書」 | 27. 幸島新田之図 |
| 11. 御留帳評定書 | 28. 留帳 |
| 12. 上道郡新田絵図 | 29. 備陽記 |
| 13. 上道郡沖新田略図 | 30. 奥上道郡船通川筋絵図 |
| 14. 上道郡沖新田開墾絵図 | 31. 旭川筋ノ図 |
| 15. 備前国上道郡沖新田図 | 32. 水門組立之図 |
| 16. 社倉書付 | 33. 水門組立之図 |
| 17. 社倉書付 | |

寛文十一年寅ノ暮在々御借シ米

社倉米之利分之内ヲ以只今迄取立候覚

講演会

10月26日(土)午後2時から、本学環境理工学部教授名合宏之氏を招き「津田永忠と岡山藩の土木事業」と題して講演会を開催した。パソコンのプレゼンテーションツールを駆使したわかりやすい講演であり、多彩な写真や図面等が興味を引いた。入場者は約45名、例年に比べいささか少なかったが、熱心に聞き入っていた。

来場者統計

①来場の情報源 (複数回答)

新聞 12.4% 雑誌 2.9% ポスター 35.2% ホームページ 3.8% その他 50.9%
その他内訳 (先生から、TVのニュースで、人から、ラジオ、図書館で、等)

②来場理由 (重複回答)

内容に興味 65.7% 図書館に興味 5.2% 時間に余裕 13.8% 近いから 15.7%
その他 24.8% その他内訳 (授業で、卒論のため等)

③展示点数

多い 2.9% 適当 79.0% 少ない 16.2% 無回答 1.9%

④解説内容

難しい 20.5% 普通 67.6% 易しい 9.5% 無回答 2.4%

⑤その他意見等

- 自分の住んでいるところの古い地図が興味深かった。
- 巡回経路がわかりにくい。
- 開館時間を図書館と同じにしてほしい。
- キャプションの文字が大きくてわかりやすかった。
- 書き下し文だけでなく訳文もあれば、なおよかった。
- 多少、地理勘がない県外人には少々づらい。
- WEBで公開されればもっとじっくり見られるので、期待しています。
- 現在の地形、航空写真などと組み合わせるとどうか。

ほか多数いただいた。

終わりに

本年度は、当初予想したよりも入場者がかなり少なかった。テーマは身近なものであり、内容も濃く非常に興味深いものと思われたのだが、結果としてこのようになったのは残念である。

原因としては、いろいろ考えられるが、PR戦略の誤りもその一つであろう。会期中、絵図類のデジタル化について県・市との共同事業を行うことを岡山市とともに記者会見を行い発表した。ニュースがもっぱらこちらを取り上げ、展示会についてはあまり紹介してくれなかった面がある。記者発表を展示会期間中に行ったのは、併せてこちらも取り上げてもらえるとの思惑があつたことだったが、いささか甘かったようである。ともあれ、次回以降の反省材料としたい。

今回も入場者の方々から貴重な意見をいただいた。感謝申し上げるとともに、次回もまた、是非、御来場賜りたい。



マスカルト

図書館ボランティアの現況

平成14年12月現在で、男性6人、女性4人の合計10人の方にお手伝いいただいています。

作業の内容は、図書・雑誌の配架、相互利用係の援助、電子情報のデータ入力等です。

一日平均では、平成14年4月が2.4人(8.26時間)、5月が2.6人(8.90時間)、6月が3.6人(11.55時間)、7月が3.2人(10.37時間)、8月が2.6人(8.43時間)、9月が2.7人(8.92時間)、10月が2.6人(8.66時間)、11月が2.5人(8.29時間)、12月が2.6人(8.71時間)のご援助をいただきました。

平成10年10月のボランティア導入以来5年を経過するわけですが、今では、図書館に必須の方々となっています。

図書受入冊数の増加

平成11年度より、契約事務の事務局への一元化に伴い、図書関係の支払い業務が図書館に一本化されたことによって、資料受入係での取り扱い冊数が大幅に増加しました。

平成13年度は、和書37,316冊、洋書13,182冊、合計50,498冊(前年度の1.08倍)を受け入れました。(備品としての受入数は、和書12,409冊、洋書9,011冊、合計21,420冊。)

文献複写の画像伝送システム運用開始

図書館では平成14年8月より文献複写サービスの一環として、画像伝送システムの運用を始めました。文献を印刷しないで、そのままデータとして伝送するもので、郵送の時間が短縮されます。すでに学内のものは、津島・鹿田・倉敷地区間でこのシステムを使いやり取りされています。特に、お急ぎのものには効果があります。

他大学間とでは、まだシステムの導入率が低いためすぐに運用はできません。今後の運用が待たれます。

教官からの寄贈図書リスト

次の方々から著書を寄贈いただきました。ありがとうございました。今後とも、ご理解とご協力をお願いします。

<中央館>

古川 昭 [教養]

舊韓末近代学校の形成——ふるかわ海事事務所, 2002 (372.21/F)

<鹿田分館>

岡山大学医学部附属病院薬事委員会(編) [岡山大学医学部附属病院]

岡山大学医学部附属病院医薬品集第5版——岡山大学医学部附属病院薬事委員会, 2002 (S499/OK)

小川紀雄(共編著) [大医歯]

脳健康科学(放送大学教材)——放送大学教育振興会, 2002 (491.3/OG)

(敬称略五十音順)

会議

◆学外

- 14.9.18 岡山県大学図書館協議会第17回研修委員会
(於 岡山理科大学)
- 10.10~10.11
平成14年度国立大学図書館協議会中国四国
地区協議会実務者会議 (於 岡山大学附属
図書館)
・独法化に向けての資産目録作成に係る諸
問題について、他
- 10.23~10.25
第43回中国四国地区大学図書館研修会 (於
山口大学)
・大学構造改革と図書館
- 11.7 平成14年度中国四国地区国立大学附属図書
館事務(部・課)長会議 (於 岡山大学附
属図書館)
・国立大学法人化への対応について、他
- 11.12 平成14年度岡山県大学図書館協議会第1回
研修会 (於 岡山県生涯学習センター)
- 11.14~11.15
第38回日本医学図書館協会中国・四国部会
総会(於 岡山大学附属図書館)
- 11.20 平成14年度岡山県図書館協会第2回理事会
(於 岡山県総合文化センター)
- 12.5~12.6
第15回国立大学図書館協議会シンポジウム
(於 九州大学附属図書館)
・国際学術コミュニケーションの展開と展
望、他
- 15.1.23~1.24
平成14年度国立大学附属図書館事務部課長
会議 (於 岐阜大学附属図書館)
・図書館職員のスキルアップ方策について

研修

- ・平成14年度(後期)岡山大学職員研修(放送大学
科目履修コース)
参加者 大園隼彦(10.1~15.1.29)
- ・平成14年度岡山大学事務系職員語学研修(英語・
中級コース)
参加者 藤原智孝(10.8~12.6)
- ・平成14年度第2回岡山大学会計(簿記)研修
参加者 内藤賢一郎(10.18~15.1.10)
- ・平成14年度地区別会計事務研修
参加者 加藤由枝(11.11~11.15)
- ・第28回中国地区係長研修
参加者 大元利彦(11.18~11.22)
- ・第22回人事院式監督者研修(JST)基本コース
参加者 犬飼恵美子(12.16~12.19)

編集委員会から

法人化に向けての取り組みが否応なしに押し寄せてきます。今までの歴史を見つめ、これからの歴史の礎を築いていく良い機会かもしれません。

今号は岡山市の乗岡様、資源生物科学研究所の留学生アンディカ様に、また図書館からは、平成14年10月着任の仲野事務部長、2年目の四方さんに寄稿いただきました。お忙しい中本当に有難うございました。

図書館の池田家文庫絵図を岡山県、岡山市の方でも郷土情報の資料として活用していただくことになりました。(前号で岡山県の森山様よりご寄稿いただいています)

デジタル化の作業も進んでいます。インターネット上で見ていただけるのをお楽しみに・・・。

岡山大学附属図書館報「楳」 No.36 平成15年2月28日

発行人 仲野憲一 編集 広報委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市津島中三丁目1-1 電話 086-252-1111

ホームページURL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>